



NTO ライトキャビネット L 取扱説明書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
 ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
 (この説明書は、必ず保管しておいてください。)

安全のための注意事項

施工、使用(操作・保守・点検)の前に必ずこの取扱説明書とその他の注意書きをすべて熟読し、正しくご使用ください。
 機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用ください。この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分してあります。

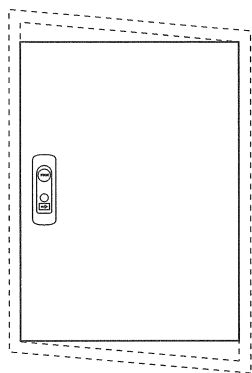
 危険	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡又は重傷を受ける可能性が想定される場合。
 注意	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害を受ける可能性が想定される場合、及び物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

■施工上の注意

注意

- ・本製品は屋内用です。屋外には使用出来ません。
- ・キャビネットへの取付機器許容質量は15kgです。許容質量を超えて取付けると、基板が変形、落下し、機器の故障やケガの原因となる可能性があります。
- ・ドアへの取付機器許容質量は2kgです。許容質量を超えて取付けると、ドアが変形、落下し、機器の故障やケガの原因となる可能性があります。
- ・キャビネットの取付けは、十分な強度のある平坦な壁面に確実に固定して下さい。
 強度が十分でない場合、キャビネットが落下し、機器の故障やケガの原因となる可能性があります。
 壁面が平坦でない場合、キャビネットがひずみ、扉の開閉が困難になることがあります。その際は下記の方法で調整して下さい。



①

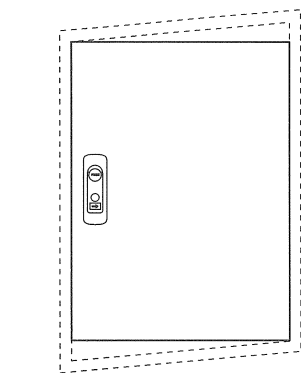


図1

②

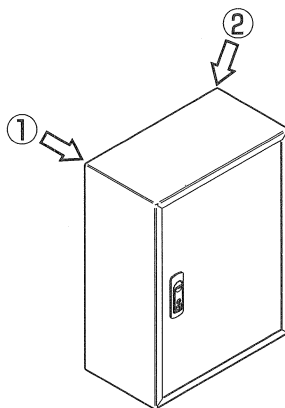


図2

図1①のようにひずみが生じた場合
 ⇒図2の①↓の本体と壁の間に
 スペース等を入れてください。

図1②のようにひずみが生じた場合
 ⇒図2の②↓の本体と壁の間に
 スペース等を入れてください。

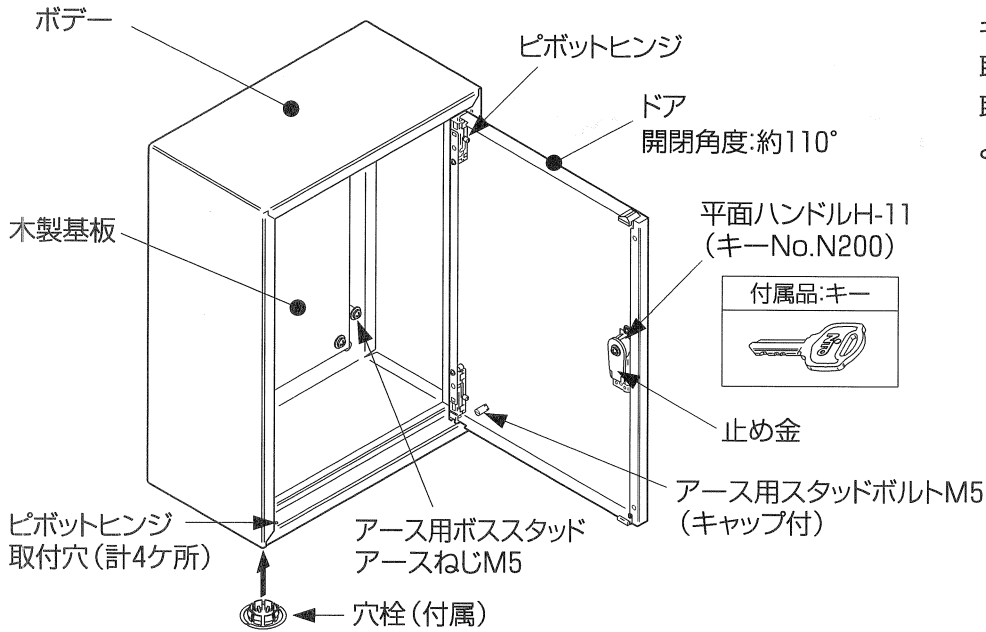
- ・落下、強い衝撃を与えないで下さい。変形、破損の恐れがあります。
- ・キャビネットを設置する際、及び設置後にキャビネットを足場にして作業をしないでください。
 キャビネットが変形し、ケガをする恐れがあります。
- ・各種取付ねじは右表のトルクを守り、正しく締付けて下さい。
 締付けが不十分の場合、部品の脱落等によりケガをする恐れがあります。

ねじの呼び	取付部品	適正締付トルク
M3	ピボットヒンジ	49~98N・cm (5~10kgf・cm)
M4	ハンドル	147~245N・cm (15~25kgf・cm)
M5	木製基板	45~96N・cm (5~10kgf・cm)
M5	止め金	176~294N・cm (16~30kgf・cm)

■穴加工について

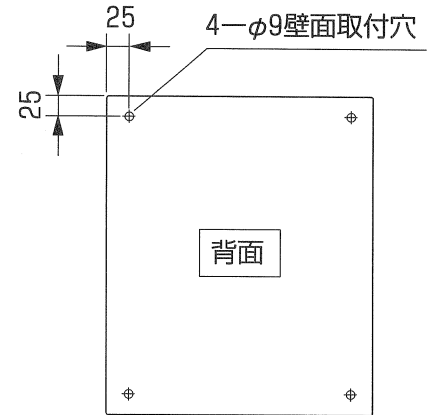
- ・本製品に穴加工を追加される場合は、弊社のレーザー加工サービス(有料)をご利用ください。
- ・お客様にて穴加工をされる場合は、油圧パンチ等による加工(ドリルによる下穴加工後)を推奨します。また、ドリル、ホルソー、ジグソー等により穴加工を行う場合は、キャビネットに過剰な荷重をかけないようにご注意ください。キャビネットが変形する恐れがあります。

■本体構造・各部名称



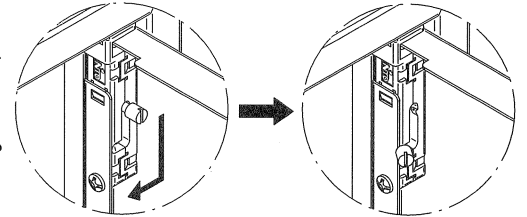
■壁面取付穴位置

キャビネットの壁面設置には下図の壁面取付穴をご利用ください。取付穴を使用しない場合は、シール等により、取付穴をふさいでご利用ください。



■扉開き方向の変更方法

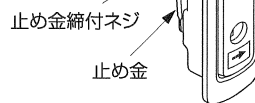
(1) ピボットヒンジ(2ヶ所)のピンを図のように外し(上側のピボットヒンジから)、扉を外して下さい。



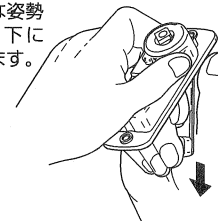
(2) 扉の上下を入れ替え、ハンドルと止め金の向きを変えて、扉に組付けてください。下記の【■取手の回転方向の変更方法について】をご参照下さい。

■取手の回転方向の変更方法について

1 止め金締付ネジをはずし止め金を取りはずします。



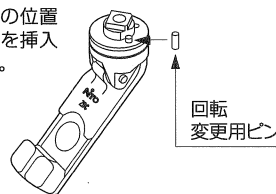
2 図のような姿勢で取手を下に引き抜きます。



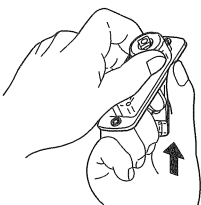
3 図の位置にピンが挿入されています。これを下向きにしてピンをなくさないようにして外します。



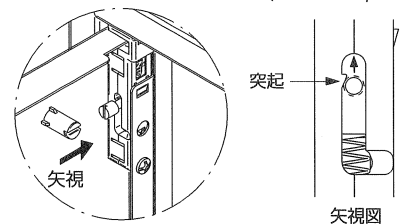
4 図の穴の位置にピンを挿入します。



5 図のような姿勢で取手を本体に確実に組み込みます。



(3) ピボットヒンジ取付穴に、ピボットヒンジを(1)の逆の順序で取付けて下さい。注1/注2



注1.ピボットヒンジは、矢視図のように突起がありますので、確実にピンを端まで押込んで組付けて下さい。

押し込みが不十分な場合、ドアが落下し、機器の故障やケガの原因となる可能性があります。

注2.扉開き方向を変更した場合、以下の点にご注意ください。

・アース用スタッドボルトの位置が上部になりますのでご了承ください。

・ハンドル取手の回転方向が表示の矢印と逆になります。

(矢印ラベルを用意しておりますので、別途ご用命ください。)

仕様等、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。また、ご不明な点がございましたら弊社技術相談室にお問い合わせください。この取扱説明書の内容は2008年4月現在のものです。